

みみよう幼稚園だより



令和2年2月号 *****<http://mimyo.org/youchien/>

いよいよ明日は生活発表会

『一月いぬる二月逃げる三月去る』といいますが、その言葉通り、年明けから今日までの速かったこと、あっという間に、明日は生活発表会です。インフルエンザの心配はあったものの、何とか本番を迎えることができそうです。特に年長さんにとっては、卒園記念ということで、思いも一入です。難しい表現にも挑戦していますが、一人ひとりの成長ぶりには感動の連続で、毎日のように、担任の先生たちから嬉しい報告がありました。幼稚園生活を終えるまでの3年間、その一年一年の積み上げによって、子どもたちは本当に大きな変化、成長を見せてくれます。生活発表会は、1年分、2年分、3年分の成長を見ることができる絶好の機会でもあります。年長さんも、年中さんも、年少さんも、一人ひとり全員が、精一杯の表現を見せてくれることでしょう。みんなでいっしょに過ごしてきたからこそその成果です。でも、本番では練習でできていたことが、できなくなるかもしれません。大きな声が出せないかもしれません。間違ってしまうかもしれません。どうか、そんな姿にも温かい拍手をお願いします。どれもこれも、成長の証です。心も身体も考える力も成長しているからこそ緊張もするのです。子どもたちの一挙手一投足から成長を感じ取ることができるはずです。ぜひ、しっかりと見てください。そして、成長の喜びをたっぷり味わっていただきたいと思います。



1.22 園歌を歌う年長さん、はりきっています！

砂場で土木工事に熱中！



動く力、考える力、やりぬく力、かかわる力、感じる力を総動員させていただきます。

「みる」ことは育むこと

さて、発表会を見ていただくこの機会に、「みる」という行為について考えてみたいと思います。「見る」「観る」「看る」「診る」「視る」と何種類もの「みる」があります。一般的には「見る」が使われることが多いのですが、漢字の持つ意味から以下のように使い分けられています。

- 「見る(物の形や色、様子などを知覚する): 夢を見る、様子を見る、事態を重く見る」
- 「観る(物の形や様子をさぐる): 芝居を観る、映画を観る、意図的に観る(観劇、観察)」
- 「看る(気を配ってみる): 病人を看る、子どもの面倒を看る(看護、看病)」
- 「診る(医者が患者の様子を調べ、その健康状態を判断する): 患者を診る、脈を診る」
- 「視る(じっくりみる): 被災地を視る、客観的に視る、一点を集中して視る(注視、凝視)」

いずれの「みる」場面も、そこには必ず、人と人との関わりがあります。どんな立場だとしても、とても大切な「みる」という行為ですが、子どもを育み、導く立場にある私たちにとって、いつでもしっかりと意識しておかなくてはならないことです。

生まれる前からずっと、病気の時も元気な時も、大切に大切に見てきた子どもたちは、よく、「みて、みて」と連呼してきます。これは、大好きな人にだけ発する言葉で、大好きな人だからこそ、嬉しいこと楽しいことを一緒に味わって欲しいと叫んでいるのです。忙しい時に限ってと感ずることもあるでしょう。それは、少し距離を感じさせているからかもしれません。そんな時には、まずは、顔を、身体を向けて見てあげましょう。そして、しっかりと観てください。それから、部分部分も注意深く視てみましょう。子どもの発信を大事に受け止めることができます。その積み重ねが子どもたちの優しさや人に対する信頼感などを育てていきます。そして、その力こそが、考える力ややりぬく力の土台となり、もっと先の学習に向かう力へとつながっていきます。運動能力や学力も、指導的な立場の人や身近な大人が、子どもの習得やつまずきをタイムリーに“みる”ことで伸ばしていくことができるのです。子どもたちの「みて、みて」の時間はそんなに長くはありません。一瞬の場合もあります。でも、どんなに短くても、その思いは身体中から溢れています。時には、お医者様のように診とることができるのも、お母さんやお父さんだからこそです。小さな一瞬、尊い成長の瞬間を、決して見逃すことのない毎日にできたらと思います。子どもが成人して20年近くになる私ですが、思い返せば、子どもを身近にみるのができたのは本当に短い期間でした。ぜひ、その貴重な時間を大切に過ごして欲しいと心から願っています。

園長 三上 玲子